



第23号

町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【北海道みんなの日を考える・・・】

「北海道みんなの日」の記念式典が七月十七（月）、札幌市の北海道議会場で開催されました。皆さんは、ご存じだったでしょうか？

新聞報道などにもありましたように、あまり道民の方々には広く周知されていないような気がいたしますので、今月は「北海道みんなの日」について、お知らせをしていきたいと思ひます。

「北海道みんなの日」は、探検家の松浦武四郎が明治二年七月十七日に「北加伊道（ほつかいどう）」の名称を明治政府に提案したことに由来して、北海道議会が中心となって、北海道議会が中心となって、北海道みんなの日条例（平成二十九年北海道条例第三十九号）を制定し、七月十七日を「北海道みんなの日（愛称…道みんなの日）」に定めたものです。

北海道のこれまでの歴史、文化や風土について理解と関心を深め、北海

道の価値を改めて認識し、道民であることを誇りに思う心を育むことにより、道民が一体となつて、より豊かな北海道を築いていくことを期すとともに、道外において、北海道の価値が広く認識される機会とするため、「北海道みんなの日」が設けられたものです。

式典のあいさつで高橋はるみ知事は、「この記念日は縄文やアイヌといたった歴史や文化を見つめ直し、北海道の魅力を理解してもらう目的で制定された。来年は、北海道が命名され百五十年となることから、さまざまに取り組みを進め豊かな北海道を築いていきたい」と言っておりました。「北海道」の名付け親と云われる松浦武四郎は一八一八年、現在の三重県松坂市で生まれております。

武四郎は、一八四五年に初めて蝦夷地探検をし、六回目の探検後に、

精力的に地図や書物をまとめ始めております。

時代が明治となり、蝦夷地のことをよく知る武四郎が政府の役人に任命され、蝦夷地に代わる新しい名前を考えるにあたり、いくつかの候補が出されましたが武四郎が提案した「北加伊道（ほつかいどう）」に決定しております。

武四郎は、命名にあたりアイヌの長老からこの大地に生まれた人を「カイ」と呼ぶことを聞き、そこで、「北にあるアイヌの人たちが暮す大地」という思いをこめて「北加伊道」という名前を考えたと言われております。その後、「加伊」という漢字が「海」に変わり、今の皆さんが馴染んでいる「北海道」となっております。

なお、条例の第三条では、使用料の特例が謳われており、北海道みんなの日には、公共施設の使用料や利用料を免除して

無料にするとあります。私たちは、福島町民であるとともに、北海道民の一員でもあります。

今後、七月十七日が道民の皆様にも広く浸透し、一人ひとりの道民が開拓の歴史などを誇りに思い、新たな時代を開拓する一歩のスタートとなるような記念日になるよう期待しております。

福島町では、毎年、春と秋に殿様街道ウォーキングが開催され、福島町の歴史に名を刻んだ伊能忠敬、間宮林蔵及び松浦武四郎などの偉人から様々な学びを教わっております。

偉人から学ぶことが大切で、北海道開拓百五十年を鑑み、新たな百五十年に向けて、今を生きる私たち一人ひとりが、後ろから来る者のために、先行するものとして歴史を伝える責任があると感じております。